



地理

日本の諸地域 九州地方 自然環境を関連付けた九州地方の 特色をとらえる探究活動

—ジグソー法を取り入れた学習活動を活用した協働的な学びの実践例—

福岡県 福岡市立吉塚中学校 主幹教諭 最所 健太

1 はじめに

「日本の諸地域」のスタートとして学習することの多い九州地方は、諸地域の学習の方法を示すために重要な地方といえる。第2章の「日本の地域的特色」で学習した自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信などの視点をを用いることで、動態地誌的に地域的特色をつかむことができる。

2 九州地方の自然環境を大観する

九州地方は、阿蘇山や桜島を中心とした火山帯、大きな川に囲まれた開けた平野、美しい海に囲まれた島々などの豊かな自然環境があり、日本国内からはもちろん、海外からの観光先としても人気の高いエリアである。このような豊かな自然環境を中核として「九州地方の自然環境は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているだろうか?」という単元を貫く問いに対して、生徒がどう考えを深めて答えを導いていけるか、授業案を提案する。「九州地方の豊かな自然環境」を中核とし、「九州地方の人々の生活」、「九州地方の農業」、「九州地方と他の地方や海外とのつながり」、「九州地方の工業への影響」、「南西諸島の産業や文化・歴史への影響」をとらえさせる授業(全5次)を構想した。

第1次の学習では、『社会科 中学生の地理』(以下、教科書) p.171、p.172~173から九州地方の特色を挙げさせる。生徒からは遺跡や建造物の特徴から、「九州地方は歴史が古い」、作物や畜産の絵から「九州地方は農業や畜産業がさかん」、

p.172~173の由布岳の様子や南の海でのダイビングの様子の写真から「九州地方は自然環境が豊か」などの発言が出された。その際、協働活動としてさまざまな生徒の考えを引き出すために、p.171、p.172~173から読み取れることをホワイトボードやクラスの考えを集約しやすいMentimeter(メンチメーター)^{※1}(図1)を活用して視覚化してもおもしろい。一通り生徒の考えを挙げさせただけで、自然環境が豊かなことに着目し、「九州地方は沖縄まで含めると北から南まで何kmあるかな?」といった発問で、福岡県から沖縄県の地理的な距離の大きさを実感させ、p.175の雨温図「7九州地方の主な都市の雨温図」から、九州地方の気候の多様性をとらえさせる。前単元の「日本の地域的特色」で学習した日本の気候区分を見分ける技能を活用する場面として、各地方において主に第1次の授業で雨温図に触れる場面は必ず作り、日本の気候区分の見極めができるよう指導することを大切にしている。各地方で必ず出てくる雨温図は各地方の自然環境を比較しながら読み取ることが容易にできる題材であり、生徒が自分が住んでいる地域の特色を客観的にとらえる格好の題材といえる。また、九州の豊

あなたの九州地方のイメージは?

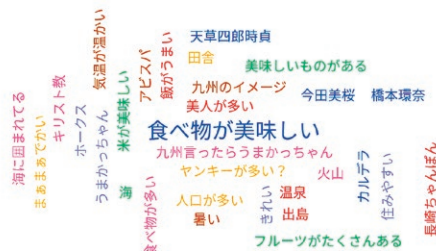


図1 メンチメーター WordCloudで表示した生徒の回答
※1…<https://www.mentimeter.com/>



図2 生徒が作成した九州地方の自然環境をまとめた白地図

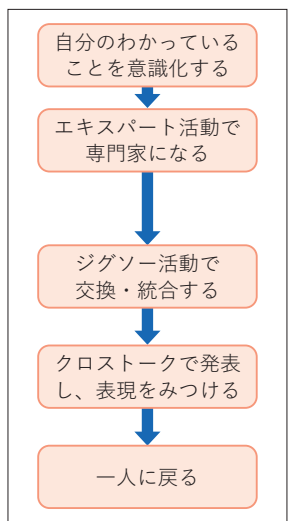
かな自然環境を実感させるために、白地図を用意^{※2}し、p.174「1九州地方の自然」の図から主な山地・火山・平野・海・川・海流を実際に書き込ませた(図2)。こうすることで、その後の自然環境を中核とした学習につなげやすいと考える。

3 ジグソー法による協働的な学びで自然環境と学習内容を関連付ける

第2次では、教育環境デザイン研究所 CoREF が提唱する知識構成型ジグソー法(図3)を取り入れ、生徒が主体的に九州地方の自然環境をさまざまな学習内容に有機的に結びつけながら理解を深める学習を構想した。5つの学習内容ごとに、①「九州地方の人々の生活」、②「九州地方の農業」、③「九州地方と他の地方や海外とのつながり」、④「九州地方の工業」、⑤「南西諸島の産業や文化・歴史」としグループ分けをした。まず、自分の分かっていることを意識化するために、この5つの内容について班のメンバーに今知っていることをGoogle Jamboardに挙げさせた(図4)。その後、個人が担当する学習内容を決め、エキスパート活動を行う。その際、教師はエキスパート活動が行われている場所に移動しながら不足している視点を指摘する必要がある。例えば、①のグループでは人口が

※2…帝国書院「社会科 中学生の地理」指導書Webサポートより利用できる。

図3 ジグソー法を取り入れた学習過程(教育環境デザイン研究所 CoREF ウェブサイト内 知識構成型ジグソー法より作成)



集中している地域の自然環境の特色に気付かせるために、『中学校社会科地図』(以下、地図帳)p.87の九州地方の主題図「①自然」と「③人口分布」の相関をとらえさせる。ここで生徒は「福岡市や佐賀市、久留米市などは、平野が広がっている場所に人口が集中している」、「大分市や宮崎市などの中心部には大きな川が流れている」ことに気づき、世界の諸地域や日本の地域的特色でつかんだ一般的共通性を九州地方にも見出し、法則としての有効性を実感することができる。また、③のグループに対しては、地図帳p.88の主題図「⑩北九州工業地帯の変化」から、中国やマレーシア・インドなどのアジアとの関係に気付かせ、アジアに近い九州の地理的位置をとらえさせることができる。地図帳の主題図は、生徒がテーマを持って調べ学習をする際、教科書の記述だけでなく、より深く地域的特色をとらえさせるために、大いに役に立つものである。その際、教師による発問やワークシートにあらかじめヒントとして地図帳の主題図のページを記入するなどの工夫で、生徒が主体的に特色をつかむ一助としたい。また、近年頻発している自然災害への気付きとして、地図帳p.88の主題図「⑫火山災害への備え」には必ず触れさせ、九州地方に多い火山地帯の防災の特色を確実につかませていくことが重要である。そこから発展させ、大きな川や降水



図4 九州地方の導入で生徒が作成したJamboard

量に着目した九州地方の大雨災害の特徴を調べさせることも必要であろう。

今回取り入れた知識構成型ジグソー法を用いるメリットとしては、3点挙げられる。1点目、「生徒が主体的に学習に取り組むきっかけ作り」となる。令和3年1月に発表された中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して」の「3. (1) 子供の学び」には、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、学びの動機付けや幅広い資質・能力の育成に向けた効果的な取組を展開していくことによって、学校教育が個々の家庭の経済事情等に左右されることなく、子供たちに必要な力を育てていく」と述べられている。第1次の九州地方の自然環境の学習において、写真資料や協働活動で、九州地方についての関心を高めたいと調べたい内容を選択できるため、エキスパート活動に対して主体的に取り組むことができる。2点目、「責任を担い、役割を果たす達成感を感じる活動」となる。班の代表としてエキスパート活動を行うため、責任感をもって取り組むことができる。社会科地理的分野に苦手意識がある生徒は通常の調べ学習では積極的になれず、最終的に他者が調べた内容をただ写すことが多くなってしまうことがある。その場合は単なる暗記すべき内容となり、社会科嫌いの一因となる機会を我々授業者が作ってしまっているといえる。中学生にとって、班員のためにやらなければならないという状況を作ることも時には必要である。3点目、生徒が自分の調べた内容を「表現し伝える経験」となる。授業時数が許される場合は、発表して他者に伝える機会を作るべきではあるが、授業時数が限られている時は、お互いの調べたシートをタブレットの写真機能を使って画像として残し、自分のシートに記入するようにしてもよい。その場合も、自分が調べた内容の説明を求められたり、不十分な部分の指摘があったりする場面が自然に発生することが多く、自分が調べた内容を表現す

る場となることが多い。

ここまでジグソー法を取り入れた学習活動のメリットを述べてきたが、当然デメリットも存在する。エキスパート活動で扱った学習内容以外の分野では理解度がどうしても落ちてしまう恐れがある。そのため、担当する教師はエキスパート活動後の共有する場面でそれぞれの学習内容のポイントなどを挙げて、定着させる必要があるだろう。その点を考慮してジグソー法を取り入れれば、主体的・対話的で深い学びを促すことができると考える。

4 ルーブリックを共有したまとめの評価

本単元のように、生徒のグループによる調べ学習を核とした協働的な学びを行った場合、九州地方の学習内容を生徒個人がどのように習得し活用しているか、教師の見取り（評価）が必要となる。そこで、単元の最後に、まとめとしてレポートによる課題を出した。単元を貫く問いに対するレポートとなるよう、レポートの課題を「九州地方の自然環境は、人々の生活や産業（第1次産業【農業】・第2次産業【工業】・第3次産業【観光】）にどのような影響を与えているのだろうか」とし、学習活動を生かせる内容とした。生徒自身がレポートを自ら修正できるよう、ルーブリック「学びのコンパス」を作成し、事前に提示した。教師がクラス全員のレポート作成の過程で、一人ひとりに支援するのは難しいため、ルーブリックを生徒自身が確認しながらレポートを作成できるかが、ポイントである。ルーブリックが手元にあって、レポートが苦手な生徒であってもまったく書けなかったり、レポートの趣旨や方向性がずれていったりすることが少なくなったと感じた。ルーブリック「学びのコンパス」については、指導と評価の一体化を意識して3つの観点で作成した（図5）。「知識・技能」の観点は、「九州地方の生活・つながり・工業・南西諸島の産業や文化・歴史の視点を使ってレポー

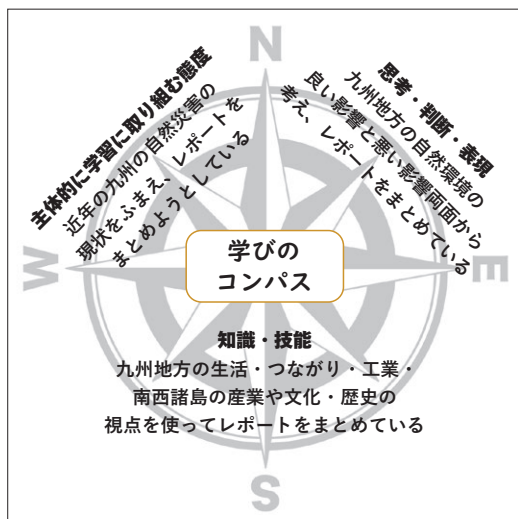


図5 レポート作成時に提示したルーブリック「学びのコンパス」

トをまとめている」とした。ジグソー法を取り入れた活動のなかで、自然環境と関連付けて学んだ生徒は、九州地方の生活について、温暖な気候と関連付けて「福岡地方では稲作が終わった後の水田で、小麦や大麦といった米以外の二毛作がさかん、宮崎平野ではビニールハウスを利用した生鮮野菜の促成栽培がさかんである」と述べる事ができた。また、南西諸島の産業について、南西諸島の気候の特色と関連させ、高温な気候に強いさとうきびやパイナップル、マンゴーの栽培について述べる事ができた。「思考・判断・表現」の観点は、「九州地方の自然環境の良い影響と悪い影響両面から考え、レポートをまとめている」とした。九州地方の自然環境の良い影響としては、「亜熱帯気候を生かした沖縄の観光業や冬でも温暖な気候を生かしたスポーツキャンプの誘致、温泉を生かした街づくりや地熱による発電」などについて述べる生徒が多くいた。悪い影響を防ぐ取り組みとして、防災の観点からは具体的に、「火山活動が活発な南九州の地域では、火山灰や地震に強いシェルターを造り、避難訓練の実施を定期的に行っている」と述べた生徒も多くいた。教師にとって評価が一番困難である「主体的に学習に取り組む態度」の観点については、「近年の九州の自然災害の現状をふまえ、レポートをまとめようとしている」とした。教育学者のニューマン(F.M.Newmann)らが提唱する「真正の学び」の基準の1つである「教室を越えた世界とのつながり」を実感できる設定を意識した。レポート作成中は、生徒の手にICT機器・タブレッ

トを用意させ、近年の九州の自然災害を調べさせ、自然と共生する生き方を意識させるレポートとなるように支援した。生徒の中には、自分たちが住む福岡地方で毎年のように起こる豪雨被害について調べ、レポートに生かす者も多くいた。近年急激に進む地球温暖化・地球沸騰化の時代を生き抜く生徒にとっては、自らが住んでいる地域、これから住むであろう地域の自然災害を知って対策を打つ視点が重要であり、地理的分野の学習がその一助になれば幸いである。

5 おわりに

本授業実践では、協働的な学びの実現を意識したジグソー法を取り入れた学習活動を設定し、単元の学びを構想した。また、必要な知識を習得する場面では生徒自身が学びを実感できるよう写真資料の読み取り、地図帳の複数の主題図の関連付け（人口と地形の関係性等）を行う場面を設定した。生徒の調べ学習で陥りがちな、教科書の記述からのみの調べ学習や、単一資料読み取りのみの調べ学習とならないように意識し、学習過程を組み立てた。生徒の深い学びを実現するためには、このように教師が活動のなかで生徒に気付かせる場面は欠かせない。また、生徒が主体的に学びに向かうためには、適切なタイミングでの教師の介入が必要である。教師の介入による教授の重要性といった「不易」な部分と、生徒の活動を主体的・対話的で深い学びにしていく「流行」の両輪を働かせていくことが、これからますます重要になっていくと感じている。

〈参考文献〉

- ・一般社団法人教育環境デザイン研究所 CoREFウェブサイト <https://ni-coref.or.jp/archives/5515>
- ・中央教育審議会答申（2021年1月）
- ・原田智仁（2018）『中学校 新学習指導要領 社会の授業づくり』明治図書
- ・岩田一彦（2001）『社会科固有の授業理論 30の提言』明治図書

帝国書院のWebサイトに、
ワークシートを掲載いたします。

